

神奈川県横浜市

地理

概要

市域の地形は、丘陵地、台地・段丘低地、埋立地に分けられる。

面積	437.38km ²
総人口	3,670,411人
人口密度	8,390人/km ²
市の木	イチョウ、ケヤキ、サザンカ、シイ、ツバキ、サンゴジュ
市の花	バラ
市歌	横浜市歌



丘陵地は、市域中央部よりやや西よりに分布し、市域を南北に縦断する。この丘陵地は保土ヶ谷区・旭区などを流れる帷子川付近を境に、北側と南側で性質を異にする。北側の丘陵地は、多摩丘陵の南端に位置し、標高は60mから100mで北に向かって高くなっている。南側の丘陵地は、三浦半島に続く三浦丘陵の北端部を占め、標高は80mから160mで南に向かって高くなっている。南側の丘陵地の方が起伏も激しく、標高も高い。鎌倉市に山頂部を置く大平山をはじめとする通称「鎌倉アルプス」に続く峠部分が市内最高点(栄区上郷町、標高159.4m)であり、市内最高峰の大丸山(金沢区釜利谷町 標高156.8m)や円海山(磯子区峰町 標高153.3m)もこの南側の丘陵地に位置する。

台地・段丘低地は、丘陵地の東西にある。東側の台地は鶴見区の地名を取って下末吉台地と呼ばれ、標高は40mから60mで鶴見川付近まで続く。西側の台地は、相模野台地の東端にあたり、標高は

30mから70mで南に向かって低くなっている。本牧付近で台地が海に突き出し、その南側は根岸湾と呼ばれる。横浜駅周辺も幕末まで袖ヶ浦と呼ばれる入り江だった。

低地には、丘陵地や台地を刻む河川の谷底低地と沿岸部の海岸低地とがある。谷底低地は鶴見川に沿って広がり、平坦な三角州性低地を形成する。また、海岸部には埋立地が造成され、海岸線はほとんどが人工化されている。金沢区の小さな入り江平潟湾は、鎌倉幕府が海の玄関口とした天然の良港であった。島としては金沢区の野島(八景島は人工島)があり、野島海岸が横浜で唯一の自然海浜となった。

地域

横浜市には、鶴見・神奈川・西・中・南・保土ヶ谷^{注)}・磯子・金沢・港北・戸塚・港南・旭・緑・瀬谷・栄・泉・青葉・都築区の全18の区がある。

注) 保土ヶ谷は保土ヶ谷ではなく、保土ヶ谷である。

歴史

横浜市域は12世紀から**本格的**に開発が始まった。13世紀前半には幕府による**大規模な開発**が始まった。江戸幕府が、置かれた17世紀以降は、東海道の宿場(神奈川・程ヶ谷と戸塚宿)を中心に発達する。江戸時代末期

までは横浜村はわずか100戸足らずの半農半漁の寒村であった。

横浜の運命を変えたのは**マシュー・カルベイス・ペリーの来航**であった。日米修好通商条約の締結で神奈川が開港された。神奈川区内には神奈川台場が建造されている。

1923年9月1日に起きた関東大震災では、横浜港、関内を始め、市内全域で大きな被害を受けた。震災復興事業により、日本大通りの拡幅、山下公園の造成、横浜三塔に数えられる神奈川県庁舎や横浜税関庁舎の建設などが行われ、1929年にはほぼ旧状に復した。

国政

国の機関

横浜市に置かれる各省庁の地方支分部局のうち、関東地方(もしくはそれよりも広い地域)を統括するものは、国土交通省の**関東地方整備局(港湾空港部)**・**関東運輸局**・海上保安庁第三管区海上保安本部など、数少ない。それらの多くは中区山下町の横浜地方合同庁舎、もしくは中区北仲通の横浜第2合同庁舎(旧生糸検査所)に所在する。他の省庁の地方支分部局で関東地方を統括するものは、埼玉県さいたま市のさいたま新都心にそのほとんどが置かれている。